



令和6年度

実施状況報告書・児童の意識調査の結果について

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

びわ湖フローティングスクールでは、よりよいフローティングスクール学習を目指し、すべての児童学習航海後に、先生方へのアンケート(実施状況報告書)、子どもたちへのアンケート(児童の意識調査)の実施を各校にお願いし、フローティングスクールへ御提出いただいています。

実施状況報告書質問項目

- ①乗船までの学習において、児童は目指す姿1にせまることができたか。
- ②児童は目指す姿2にせまることができたか。
- ③児童は3つの「あ」の約束(安全・挨拶・後始末)を守ることができたか。
- ④児童は自校や他校の友だちと協力して学習や活動に取り組むことができたか。
- ⑤児童が新たな課題を発見したり、課題について確かめたりすることができたか。
- ⑥フローティングスクール学習(今後の予定も含む)を通して、児童は自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりして、自分の考えを深めることができたか。
- ⑦フローティングスクール学習(今後の予定も含む)を通して、児童は目指す姿3にせまることができたか。
- ⑧児童にとって、フローティングスクール学習(今後の予定も含む)はよかったか。

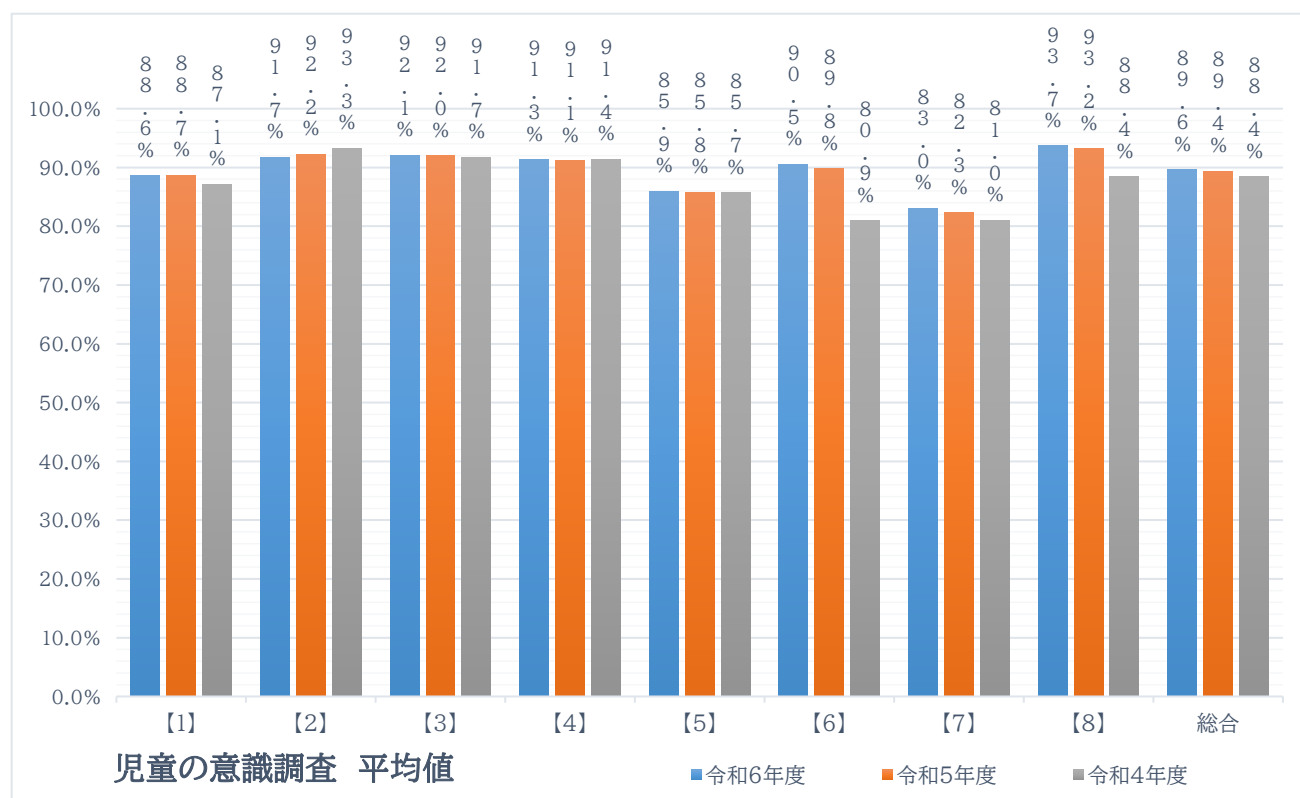
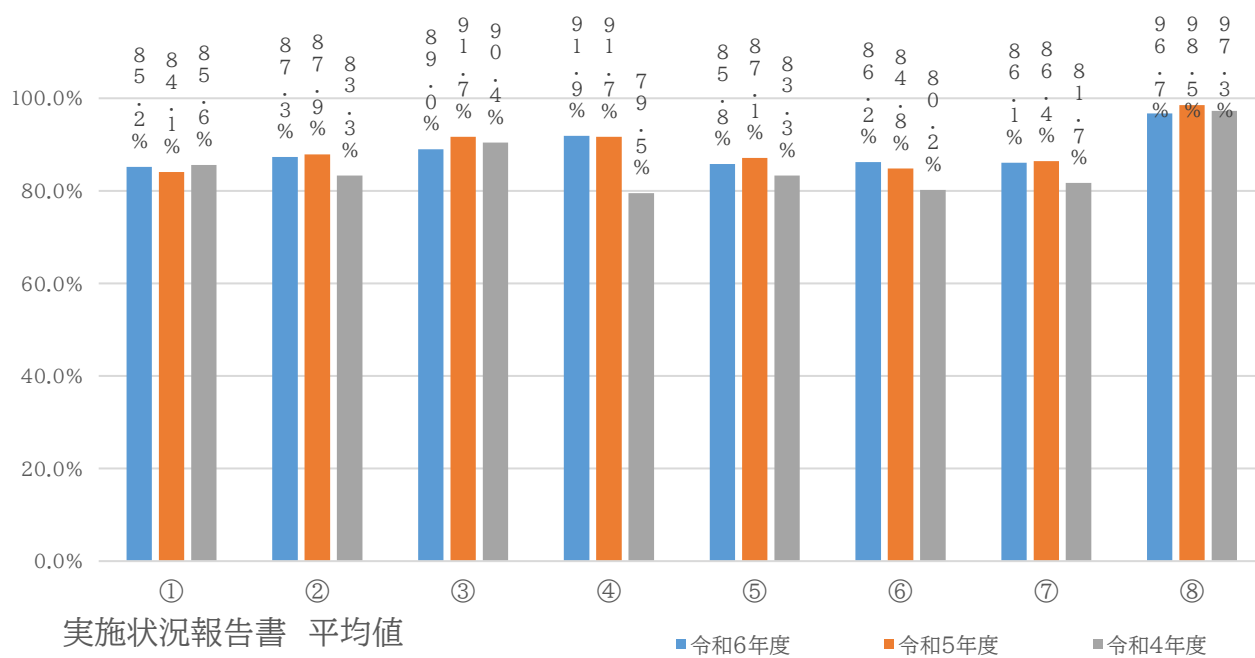
児童の意識調査質問項目

- ①乗船までの学習で、乗船中に調べたいことや確かめたいことを見つけたり、設定したりすることはできたか
- ②航海中の生活では、「3つのあ」の約束を意識してすごすことができたか
- ③友だちと協力して学習や活動に取り組むことができたか
- ④航海中に、今まで知らなかったことや確かめたかったことを、知ったり確かめたりすることができたか
- ⑤航海中に、もっと知りたいことや確かめたいことを見つけることができたか
- ⑥フローティングスクールを通して、友だちのよさを見つけたり、友だちの考えから自分の考えを深めたりすることができたか
- ⑦フローティングスクール学習を終えて、考えたことを他の人に伝えることができたか(これからの予定もふくむ)
- ⑧フローティングスクール学習(船内生活もふくめて)は、よかったか(これからの予定もふくむ)

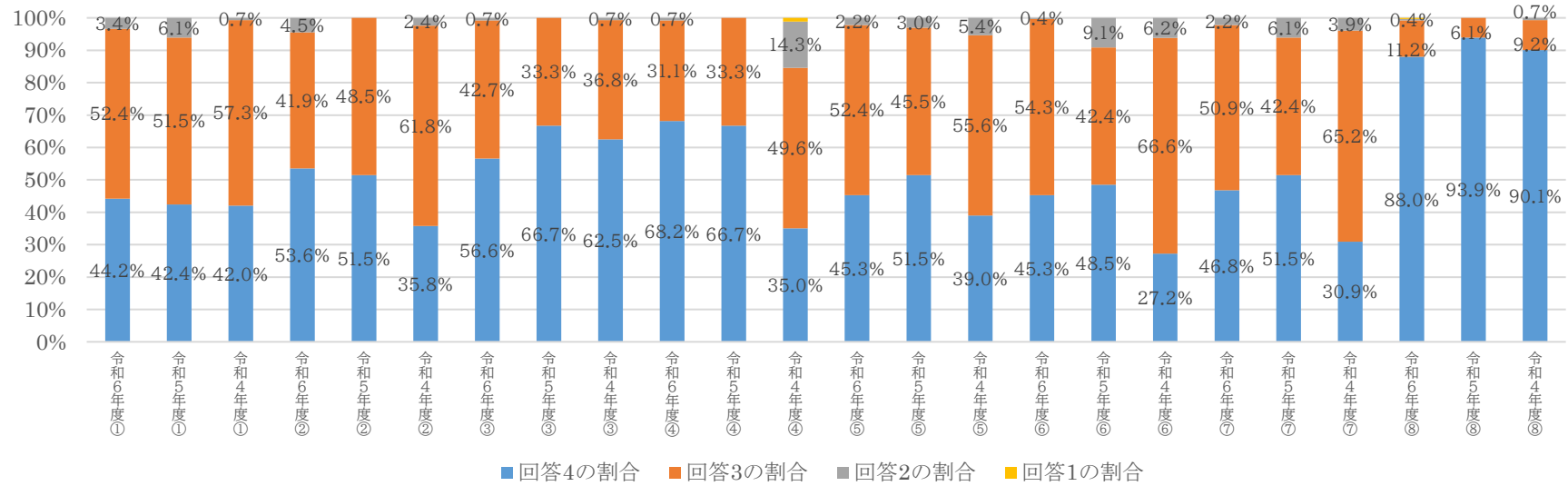
令和6年度の集計結果が資料1です。

これらの集計結果からもわかるように、先生方も子どもたちも、それぞれのアンケートに対して、どの質問においても80%近くを示すものが多く、概ね達成できていることがわかります。特に、質問8の「フローティングスクールの学習はよかったですか」に対しては、実施状況報告書では96.7%、児童の意識調査では93.7%という評価が得られ、満足のいく指導や学習ができた先生方、子どもたちが大変多かったことがうかがえます。また、実施状況報告書の質問3、6の数値が令和4年度(泊を伴わないフローティングスクール)から軒並み上がっていることは、先生方も2日間でフローティングスクールを行う意義を感じていただいていると読み取ることができます。児童の意識調査の質問7については、令和元年度から重点組織目標として『滋賀の教育大綱(第4期滋賀県教育振興基本計画)令和5年12月 滋賀県』にも挙げています。83%として数値目標を掲げていますが、過去6年間で初めて数値目標である83%に到達することができました。これは、研究を深めるための手立てとして「ホームページの刷新」や「学習コンテンツの開発と充実」、「単元計画例『専門家になってびわ湖会議を開こう』の開発と充実」が大きく実を結んだ結果であると考えます。実施状況報告書の質問6でも今年度は肯定的意見が大半となり、先生方の意識の中からも目標数値を達成していると言えます。しかし、今もなお「調べる資料が少ない。」という意見を多くいただいています。本アンケート結果を先生方の御指導に生かしていただけるよう、びわ湖フローティングスクールは、事前・事後学習における学びの発信方法や船内生活および交流のもち方などについて、先生方に指導方法の例を示したり、先生方の相談に応じたりしていきたいと考えています。

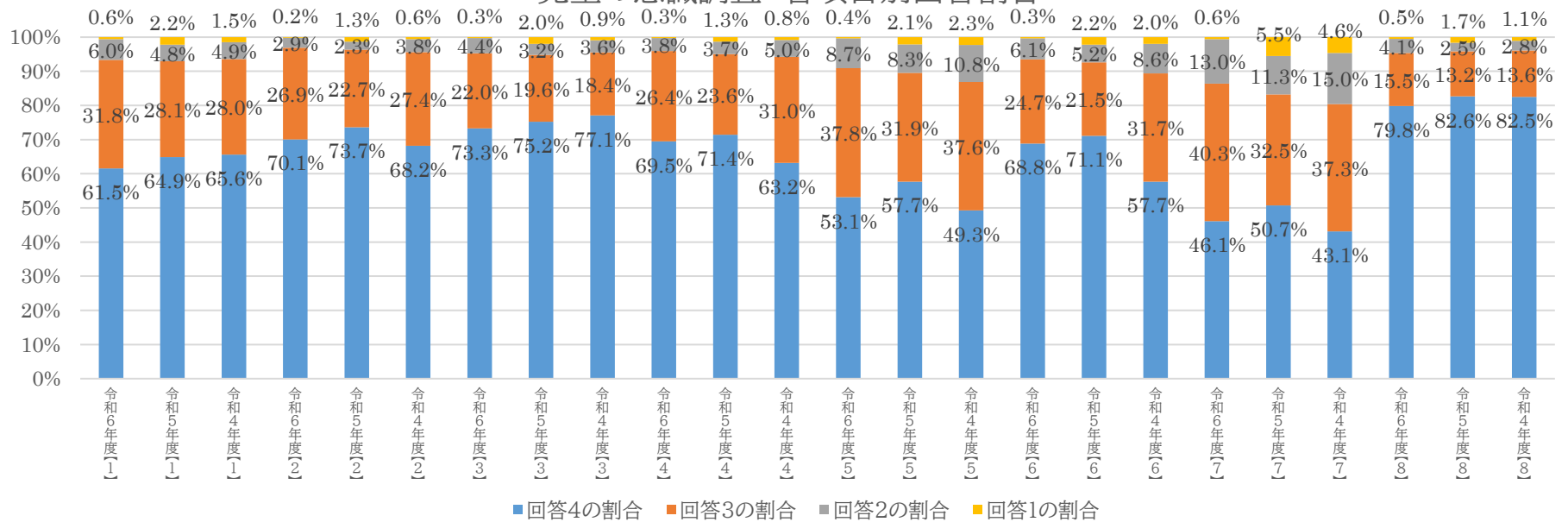
令和6年度 実施状況報告書・児童の意識調査集計結果



実施状況報告書 各項目別回答割合



児童の意識調査 各項目別回答割合



相関係数

相関係数とは、2つの変数の関係を表す係数です。比例関係の強さを、1から-1の間の数で表します。相関係数の絶対値が1に近いほど、相関関係が強くなります。

相関関係の絶対値	解釈
0.0～±0.2	ほとんど相関関係がない
±0.2～±0.4	やや正の相関関係がある、やや負の相関関係がある
±0.4～±0.7	かなり正の相関関係がある、かなり負の相関関係がある
±0.7～±1.0	強い正の相関関係がある、強い負の相関関係がある

1に近いほど「正の相関関係(一方が増えればもう一方も増える)」が強く、-1に近いほど「負の相関関係(一方が増えればもう一方が減る)」が強くなります。

相関から見えてきたこと(表内番号対応)

- ①乗船までに課題意識をもって乗船した児童は、乗船中に課題を確かめたり、新たな課題を見つけたりすることができています。また、「自分の考えを持ち、伝えたこと」とも高い相関関係が見られます。さらに、「フローティングスクールの学習はよかった」とも高い相関関係が見られるため、課題意識をもって乗船することが、乗船中や乗船後の達成度に深く関係していることが分かります。
- ②乗船までの学習で、児童は固有種についての学習をしてきているといった相関が強いことが分かります。他の部分では大きな相関の強さがないですが、事前の学習で教師がびわ湖の特徴として指導しやすいものの1つであると考えます。
- ③先生は、目指す児童の姿2にせまることができたと評価するほど、考えを深めることができた実感しています。
- ④児童の意識調査の質問4の「航海中に課題を確かめた」と質問5の「航海中に新たな課題を見つけた」と「展望」には強い正の相関が見られます。これは、展望放送を聴きながら本物体験をすることで得られるフローティングスクールならではの経験になっていることを表します。
- ⑤児童の意識調査の質問6の「自分の考えを深める」には「みんな」と「友だち」との関わりが大切であることがこの正の相関からも分かります。
- ⑥「3つのあ」について目指す児童の姿3と正の強い相関が表されていることは、学校に戻ってからも同様に「3つのあ」を意識して行動することが大切であると考えていることが推察されます。
- ⑦児童の意識調査質問4、5、6と「うみのこ」は正の相関関係があります。航海中に課題を確かめたり、新たな課題を見つけたり、自分の考えを深めたりした児童は、「うみのこ」と記述していることが多いです。船でしかできない「本物体験」ということを児童が意識し、前向きに取り組むことがこの結果につながったと考えます。先生の声かけで児童に本物体験を「意識させる」ことが大切になってくると考えます。